



ちばりは ニュース

2018年11月発行 第34号
千葉県千葉リハビリテーションセンター 広報誌



〒266-0005
千葉市緑区誉田町1-45-2
TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857
ホームページアドレス
<http://www.chiba-reha.jp/>

理念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

・私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します・

基本方針

利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。

日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。

地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

第41回総合リハビリテーション 研究大会が開催されました

センター長 吉永勝訓

平成30年10月27日、28日の2日間、ホテルポートプラザちば（千葉市中央区）にて、「総合リハビリテーションの新機軸“地域包括ケア時代における総合リハビリテーション”」をテーマとして、第41回総合リハビリテーション研究大会を開催し、175名の方々に参加をいただきました。

本研究大会は、1977年に、医療、教育、職業、社会等、各分野にまたがるリハビリテーション従事者の横の連携と、人的・知的交流を目指した「リハビリテーション交流セミナー」として、リハビリテーション専門職有志らにより開始された伝統のある大会であり、41回目の今回が、初の千葉県開催となりました。



シンポジウム1

「地域包括ケア時代における医療的ケア児者への支援」

地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現に向けた取り組みにおいては、総合リハビリテーションにおける連携や手法が役立つと考えています。また、総合リハビリテーションにおいても、障害を持つ方々の高寿命化、医療的ケアが必要な重度障害児・者の増加、重複障害などの障害の複雑化といった社会や当事者の変化の中で、今までよりも広い視点で考え、また連携の幅を広げていく必要があると考えています。併せて、これら世の中の情勢の中で、総合リハビリテーションセンターとして当センターの役割はとて重要なものとなることを、今回の大会において再確認しました。



分科会3「社会リハビリテーション～生きる力を高める」

実行委員長 吉永勝訓

基調講演では、「地域包括ケア時代に向けた千葉リハの取り組み」と題し、小児部門から、成人部門・地域リハ・災害リハまで、総合リハビリテーションセンターならではの当センターの幅広い取り組みについて講演を行いました。

この二日間の講演、シンポジウム、分科会においても、医療的ケア児・者から災害、ロボット・機器の活用、リハ看護、社会リハ、高次脳機能障害などの多岐に渡る切り口から、医療職、福祉職、特別支援学校教諭、障害当事者等の様々な立場の方々が、総合リハビリテーションについての発信をしてくださいました。

特に、日本障害者リハビリテーション協会副会長の松井亮輔先生からは「障害者をめぐる国内外の動向」というテーマで障害者の雇用・就労への取り組みについて、日本と欧州の比較を交えてお話いただきました。また、プログラムの最後、鼎談「地域包括ケア時代での総合リハビリテーションに対する期待」では、日本リハビリテーション連携科学学会前理事長の奥野英子先生、日本作業療法士協会会長の中村春基先生、わたくし吉永から、今大会のまとめとして今後の総合リハビリテーションへの期待をお話させていただきました。

日本身体障害者補助犬学会 第11回学術大会が開催されました

副センター長 菊地尚久

2018年10月6日(土)、7日(日)に日本身体障害者補助犬学会第11回学術大会を開催しました。250名を超える多数の方々の参加があり、盛況のうちに学会プログラムを終了することができました。

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることもあり、テーマを「世界を翔る補助犬使用者-2020オリパラに向けて-」としました。補助犬とオリンピック・パラリンピックが直接結び付くわけではありませんが、パラリンピックの競技者で補助犬ユーザーの方はおられると思いますし、オリンピック・パラリンピックを応援・観戦に来られる世界中の方々の中に補助犬ユーザーが来られることと思ひ、このテーマとしています。



藤原智貴さんと
介助犬ダイキチ



シンポジストの
吉川明先生

またシンポジウムとして「世界の補助犬の動向と我が国の取り組み」というテーマを設定し、厚生労働省の秋山仁先生、農林水産省の櫻井健二先生、日本介助犬協会の高柳友子先生、補助犬情報センターの吉田文先生、日本盲導犬協会の吉川明先生、日本聴導犬協会の有馬もと先生、神戸大学保健学科の三浦靖史先生、帝京科学大学の山本真理子先生から発表いただき、日本の補助犬の定義と世界との違い、海外の補助犬を受け入れるにあたっての問題点について議論を深めることができました。また多数の一般口演があり、熱気ある会場で活発な討論を行うことができました。

今後も総合リハビリテーションセンターのリハビリテーション科医師として、補助犬の普及・発展に貢献していきたいと思ひます。最後に参加いただいた方々、協力いただいた当センター職員に感謝申し上げます。



大会長 菊地尚久



初日の市民公開講座では、「パラアイスホッケー平昌五輪に参加して」というテーマで東京アイスバーズの前田啓佑選手から講演いただき、また補助犬使用者と障害者スポーツに関する講演として盲導犬使用者でフリーダイビングの選手である浅野まりさん、介助犬使用者でパラバドミントン、パラカーの選手である我妻進之さん、介助犬使用者でパラサーフィンの選手である藤原智貴さんから講演いただきました。翌日の学術大会では大会長講演として私から障害者スポーツに関する講演を行い、基調講演としてリオパラリンピックで日本チームの医療団として活躍された筑波大学医学部附属病院リハビリテーション科の羽田康史先生から「パラ・スポーツ選手の“移動の障害”」というテーマで講演いただきました。



池畑久美子さんが「ねむの木賞」を受賞されました

この度、平成30年度ねむの木賞において、当センター看護局長 池畑久美子さんが、看護師としての長年の功勞により「ねむの木賞」を受賞され、11月6日にグランドプリンスホテルで贈呈式が行われ、皇后陛下に拝謁を賜る榮に俗されました。

受賞の感想からこれからの目標などについてお話しいただきました。

- 受賞された感想をお願いします。

自分がもらえるのは信じられないという気持ちですが、自分一人では受賞できなかったと思うので、一緒に障害児・者の看護をやってきた皆さんのおかげでいただけたと思っています。そう考えると本当に嬉しいです。

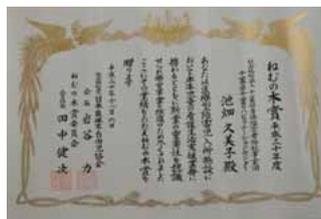
- 今までで一番嬉しかったことは何ですか？

普段利用者さんや家族の方と関わる中で、大変な時でも、利用者さんの小さな変化に気づけて家族やスタッフと一緒に喜べた時です。

- これからの目標は何ですか？

自分だけが考えて看護ができるのではなく、多職種との相談、職員と一緒に利用者さんにとって何が大事かを考えて支えていながら自分たちも成長していきたいというのが目標ですかね。また、看護局長としてそういう気持ちをしっかり伝えていきたいですね。

ねむの木賞：永年肢体不自由児の日常生活指導業務に携わり、優秀な成績をおさめている女性職員に対して授与される賞であり、年間に4人ほどしか授与されない。



皇后美智子様との拝謁、左側中央が池畑さん

大塚恵美子さんが「文化の日 千葉県功勞者表彰」を受賞されました

この度、当センター主幹 大塚恵美子さんの、長年の心理発達治療士としての医療・福祉にわたる、障害児・者への社会（家庭）復歸、自立における支援の功績が認められ、11月3日に千葉県議会議場で「健康福祉功勞」として表彰されました。

受賞の感想からこれからの目標などについてお話しいただきました。

- 受賞された感想をお願いします。

正直私でいいんですかと思いましたが、開設以来千葉リハでやってきたことに対して表彰されたと思うと嬉しく思いました。

- 今までで一番嬉しかったことは何ですか？

ずっと同じ場所にいることで、利用者が成長して訪ねてくださったり、顔を見せてくださる方がいることが嬉しかったですね。また、いろいろ経験させていただいたことが今の仕事に役立ってるなと感じた時は嬉しく思いました。

- これからの目標は何ですか？

今自分もっている力を使ってできることをやっていくのが基本的な考えなのですが、今までの経験の総決算として高次脳マッチドオフィスの仕事があると思うので、高次脳マッチドオフィスに勤めてる人のステップアップを目指していきたいです。また、センター外での家族会などとの関わりを継続していきたいなとも思っています。



現在の配属先である高次脳マッチドオフィスでの一枚

第14回高次脳機能障害リハビリテーション
千葉懇話会（ご報告）

9月28日(金)、千葉市民会館にて第14回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会を開催いたしました。今回は、桔梗ヶ原病院副院長・高次脳機能リハビリテーションセンター長の原寛美先生から、「高次脳機能障害リハビリテーションのすすめ方」と題して、高次脳機能障害の実態調査、画像診断・神経心理検査の再考、認知リハビリテーションの方法論、若年者外傷性脳損傷の方の特徴等について、多くの画像や検査所見をもとにご講演いただきました。当日は、医療・福祉・就労関係者を中心に

178名という多くの方々にご参加いただき、「明日からの臨床に活かしたい」と活発に質問も出され、会場は盛況となりました。



センター案内図



第15回 高次脳機能障害リハビリテーション講演会
「高次脳機能障害者の地域支援」

日時：平成31年1月12日（土）13:00～16:00

場所：千葉市文化センター アートホール

講演：「高次脳機能障害者の地域支援」

講師：野々垣 睦美氏

（特定非営利活動法人 脳外傷友の会 ナナクラブハウス すてっぴなな 統括所長）

シンポジウム：「地域で支えるこうじのう」

シンポジスト：市川市障害者支援課 黒岩 さやか氏

いんば障害者相談センター 佐藤 美代子氏

ちば高次脳機能障害者と家族の会

角田 義規氏

千葉県千葉リハビリテーションセンター

小倉 由紀

第12回 千葉県地域リハビリテーションフォーラム

日時：平成31年2月16日（土）13:00～16:30

場所：千葉市文化センター アートホール

講演

「地域リハビリテーションの基本～地域住民も含めた活動」

（講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター

センター長 吉永 勝訓）

特別講演

「人材育成の観点から見た地域貢献活動の意義（仮）」

（講師：医療法人 共和会 小倉リハビリテーション病院

院長 梅津 祐一氏）

その他事例報告、ポスター発表、シンポジウム予定

車のご利用

- ・千葉東金道路 大宮インターから約10分
- ・京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

電車・路線バスのご利用

- ・JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分
- ・JR千葉駅東口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約40分（土曜・休日のみ）

無料送迎バスのご案内

平成26年8月1日改定

（センター⇄JR鎌取駅 循環運行）

JR鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き

千葉リハビリテーションセンター発 JR鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	10 30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20 40
12	10 30 50	40
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

時	平日	土曜日
8	03 23 43	03 23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13 33
12	03 23 43	33
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

- ①センター送迎バス発着場所について
鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近
（専用のバス停はございません）
センター発・・・センター正面玄関前
- ②車椅子ご利用の乗車定員について
中型バス（黄色）・・・2名
マイクロバス（水色）・・・3名
- ③日曜・休日は運休となります。
- ④道路混雑等により遅延する場合があります。